

## 生涯学習施設の自己紹介

### 【施設名】富山県立近代美術館

#### 【施設概要】

富山市の中心部に近い城南公園の一角に建つ富山県立近代美術館は、豊かな緑に映える白御影石とミラーガラスに囲まれたシンプルな外観の美術館です。広い展示空間が特色となっており、1981年7月の開館以来、富山県を代表する文化施設として多くの人々に親しまれています。2003年4月に、4つの常設展示室などを新たに整備し、さらに多くの作品を鑑賞いただけるようになりました。美術館では、20世紀初頭から現在にいたる美術の流れを、世界・日本・富山の3つの視点から展望し、意欲的な収集・展示活動、普及活動によって、美術との新鮮な出会いの場となるようめざしています。

また、ピカソやミロの作品をはじめ、富山県出身の詩人・評論家、瀧口修造の作品や旧所蔵作品「瀧口修造コレクション」、現代のポスターや椅子デザインのコレクションの常設展示に加え、年間約6回の企画展示により、様々な視点から20世紀以降、そして現代にいたる美術の様相を紹介しています。世界や日本の現代美術を紹介する魅力ある展覧会や、富山の現代美術を紹介する展覧会、そしてデザインの展覧会などその内容は実に多彩です。また、子どもたちが参加できる展覧会やイベントも開催しています。



↑ 【美術館外観】

ホームページ→ <http://www.pref.toyama.jp/branches/3042/3042.htm>

#### 【特色ある取り組み等】

##### 1. ミュージアム創造広場事業

この事業は、美術館全体を「創造広場」と位置づけ、学校教育とも連携しながら、児童生徒たちに、創造的な体験ができる機会を増やそうと平成18年度から実施したものです。それまで実施してきた3つの事業、①子ども向け鑑賞ガイドの充実、②キッズコーナーにおける鑑賞教材の研究と活用、③親子美術講座を一元化した事業です。



← 【きんぴアートキット「いろいろカラー」

企画展「美術と遊ぼうーアートの迷宮」会場より】

なかでも、当初、企画展にあわせ各担当学芸員が手作りで作成し始めた「子どものための展覧会ガイド」は、工夫を重ね、15年度から「きんぴキッズガイド」としてバージョンアップし、子どもたちだけでなく大人たちにも大変好評を得ているところです。その他、常設展示室には、それ以前に作成した大人向けの解説カードと子ども向けの解説カード「みてみてカード」があり、こちらも鑑賞の一助として来館者に好評を得ています。また、毎年、地元の金融機関、北陸銀行奨学助成財団の資金協力により、当館の常設展示を紹介するガイドブックを作成し、県内の中学1年生に全員に配布しています。

【きんぴアートキット「あやトリック」の使用例 →  
キッズ・コーナーにて】

館内中2階にあるキッズコーナーは、当館独自の子どものためのスペースであり、当館が独自で開発した鑑賞教材「きんぴアート・キット」を活用しながら、子どもたちが多角的に美術に接する場を提供し、高校生以下の児童生徒の観覧料免除とあいまって、多くの子どもたちに愛されるコーナーとなっています。キッズコーナーには絵本も配置しており、隣には、3つのブースからなる「映像コーナー」もあり、美術プログラムのほかアニメーション番組も楽しめるようになっていました。キッズコーナーに配置している鑑賞教材は、当館学芸員と美術教師が協力し作成したもので、今では「いろいろカラー」「たんけんマント」など9種類のキットが完成しています。このキットは、キッズコーナーや展示室をはじめ、小・中学校や市町村美術館などの館外活用も行っています。その成果は、学校等からの利用申し込みの増加にもあらわれています。



その他、当館学芸員が講師を務め、体験的要素を取り入れた子ども向けの「子どもアート・ワークショップ」(企画展を中心に年約6回開催)や、大人向けの企画展に関連する美術講座、学芸員による解説会なども積極的に開催し、美術の多角的な理解を促す美術館活動を心がけています。

## 2. 子ども向け事業の展開

また、当館は、子ども向け事業の展開に大きな力を注ぎ、先述の様々な教育・普及事業も、美術館が将来を担う若い世代と美術との接点となることを願い、継続実施させてきたものです。特に、開館当初から継続させてきた学校や地域と美術館が連携する企画展は、当館の最も特色ある取り組み例といえるでしょう。19年度からは、富山県内の学校と美術館が共同で開催する「みんなのアート・ミュージアム」が新たにスタートします。この展覧会は、学校の児童生徒が独自にみんなに見てほしい「展覧会」を企画し、作品を制作して発表する企画展です。約10校の児童生徒が企画する「展覧会」が集まる展覧会。会期中

にはワークショップなどのイベントも多数開催予定です。

### 3. 地域・大学との連携

当館は、館活動のPR普及と県内美術文化活性化を目的として、館外展示事業に積極的に取り組んでいます。県内の小中高等学校と連携し展開している「学校一日美術館（収蔵品約25点を年約10校に展示するもの）」、県立中央病院における「ヒーリングギャラリー」、「地域美術ネットワーク活性化事業（県内美術館等との連携、共同企画展）」など、当館の収蔵品をフルに活用しながら多彩な展覧会を開催しています。



#### ↑【学校一日美術館】

18年度実施した特筆すべき連携事業として、3年ごとに開催される「世界ポスタートリエンナーレトヤマ」の会期にあわせ、富山商工会議所（富山市）と協力しながら実施した「ポスターの街・とやま」があげられます。市内商店街でのポスターの掲示やビル壁面への巨大ポスター、ポスター柱の設置など街にはポスターが溢れ、さらにポスタースクールを開校し、若いデザイナーとの交流も図りました。民間との協力で成り立ったこの事業は県内各方面から高く評価され、今後も継続していく予定です。

また18年度には企画展内容にあわせて、富山県・富山大学芸術文化学部との連携事業も行いました。当館の椅子コレクションを主体とした企画展「椅子の森から」への富山大学所蔵作品の借用展示と、学生有志8名との協同企画による「子どもアートワークショップー椅子とあそぼう！」の実施です。学芸員と学生が意見を交換しつつ、子どもが学生に手を借りながら1人1脚の椅子を完成させるという充実した内容となりました。

上記のほか、県民公園太閤山ランドにある当館の展示スペース「ふるさとギャラリー」においては、当館収蔵品だけではなく、同県立美術館である水墨美術館の出品協力を得た企画や、県内作家を取りあげた企画展示を行うなど新しい試みも積極的に導入した意欲的な館外展示を行っています。



【ポスターの街・とやま（総曲輪通り中心商店街）】→

#### その他ー「友の会」と「富山県博物館協会」他ー

当館に事務局をおき、主な仕事を行っている友の会活動とボランティア活動、富山県博物館協会の事業などにもふれておきたいと思えます。ブックショップ（ミュージアムグッズ

ズを販売)、喫茶の運営、そして、当館の常設展示の中核となる常設 I 「20 世紀美術の流れ」の解説ガイドを行うボランティア活動支援も富山近美友の会が行っています。喫茶では、企画展毎にオリジナルブレンドコーヒーを企画し、五感を通して美術を楽しんでいただいています。常設 I でのガイドは、ボランティアが毎週日曜日に当番を決めた「日曜トーク」も行っており、他の開館日も希望に対応しています。その他、印刷物の発送補助、キッズコーナーの活動補助など、多くの美術館支援を行っています。

富山県博物館協会の事業では、年 1 回、県内の美術館、博物館の基本情報と年間スケジュールを掲載した「博物館ガイド」を刊行し、一般来館者をはじめ観光された県外の方から大変好評を得ています。

また、職員の事務室がある別館では、講座やボランティア研修、学芸員実習生の受け入れ、教育機関等への会議室提供、県博物館協会の研究発表の場として、より開かれた教育・普及活動を展開しています。

親しみやすく開かれた美術館、魅力ある美術館を目指し、今後も活発な事業を展開していく所存です。